

〔國牛十圖〕御厨牛○略

中

印○烙 大文字に鞘繪自故今出川入道太政大臣家被下此印云々或云、大文字にはあらず、散毬打に鞘繪といふと云々、

略○中

遠江牛○略

中

印いほりのなかにものあり、又すはまをもさすにや、

〔平家物語〕競事

むね盛卿○中あつばれ馬や、馬○木はまことによひ馬で有けり、されどあまりにおしみづるがにくきに、主が名のりをかなやきにせよとて、仲綱といふかなやきをして、馬屋にこそ立られければ、まらふ人來て、聞え候名馬を見候はゞやと申ければ、そのなかつなめにくらをげ、ひき出せのれうて、はれなんとぞの給ひける○中たゞ今しも三井寺には、わたなべたうより合て、きおふがまだ有けり○中きおふ、かしこまつて申けるは、伊豆のかみ殿○源仲綱の木のしたがかりに、六はらのなんれうをこそ取てまいつて候へ、まいらせ候はんとて奉る、伊豆のかみなめならずよろこび給ひて、やがておがみをきり、かなやきをして、その夜六はらへつかはさる、夜半ばかりに、門の内へおび入りければ、むまやに入て馬共とくひあひければ、その時とねりおどろきあひ、なんれうがまいつて候と申す、宗盛の卿いそぎ出て見給ふに、むかしはなんれう、今は平らのむねもり天道といふ、かなやきをこそしたりけれ、

〔牛馬定目留書〕覺

一總馬員數改人、今度被遣候間、立合急度相改帳面にて差上可申事、

一上中下之母駄、本帳にて遂吟味、本帳之外ニ上中江加可然駄有之候ばゞ、尤帳面に加可申候、上中下共に向後母駄之分、髪を切置可申候、并父馬其外能馬者、髪をきり可申事、